

平成30年12月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

平成30年12月定例教育委員会会議録

- 1 開催日時、会場
平成30年12月27日（木） 13時30分～15時40分
川西庁舎 4階 第1研修室
- 2 出席
蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員
- 3 説明のため出席した者
子育て教育部長（樋口幸宏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課長（山岸一郎）、指導管理主事（山本平生）、生涯学習課長（鈴木規宰）、文化財課長（佐野誠市）、スポーツ振興課長（井川純宏）
- 4 会議の内容
 - (1) 会議録の承認
11月定例会 署名委員：吉楽委員、佐藤委員
 - (2) 会議録署名委員の指名
署名委員：佐藤委員、浅田委員
 - (3) 報告・協議事項
 - ① 共催・後援等報告
・資料のとおり

(特に質疑等なく了承された)
 - ② 報告第1号 越後松之山「森の学校」キョロロ開館時間の変更について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

鈴木生涯学習課長
・資料に基づき説明。

(特に質疑等なく了承された)
 - ③ 報告第2号 十日町市スポーツパレス川西の休館日及び利用時間の変更について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

井川スポーツ振興課長
・資料に基づき説明。

(特に質疑等なく了承された)
 - (4) 議決事項
 - ① 議案第1号 越後妻有文化ホール・サポーターズ「段サポ」実施要綱の制定について
蔵品教育長

- ・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明。

蔵品教育長

- ・自主事業の範囲は、主催だけなのか。

鈴木生涯学習課長

- ・主催だけで5事業無い場合も考えられるため、共催事業の一部を加える考えである。他市の例では、貸し館のイベントにも当該事業に協力が可能かどうかを確認し、対象としている。

吉楽委員

- ・会員の資格は、十日町市外の方でも良いのか。

鈴木生涯学習課長

- ・十日町市外でも構わない。段十ろうに関係する企業にも会員加入を呼びかける予定である。

佐藤委員

- ・個人会員の年齢は決まっているのか。学生でもいいのか。

鈴木生涯学習課長

- ・そこまで承知していない。確認させてほしい。

庭野委員

- ・申し込みは、中央公民館で受けるのか。

鈴木生涯学習課長

- ・基本的には、中央公民館（段十ろう）を考えているが、チケット販売でも情報館及び各地区館10館でも申し込みできるように考えたい。

庭野委員

- ・申し込み受付は、いつから開始されるのか。

鈴木生涯学習課長

- ・2月10日号の市報でお知らせして、3月末で一旦締切り、それ以降も随時申し込みができる。但し、随時受付時から1年間では切り替えの手間が大変であるため、4月から3月末までの1年間を対象期間と考えている。

（以上の質疑のあと議決された）

② 議案第2号 十日町市立中学校の運動部活動の方針について

蔵品教育長

- ・議案第2号を上程し、事務局の説明を求めた。

山岸学校教育課長

- ・資料に基づき説明。

庭野委員

- ・今までにも方針はあったのか。

山岸課長

- ・無かった。

庭野委員

- ・高校野球では高野連が投球数の制限をしたが、中学校でも試合数は多いと思うがどうなるのだろうか。

山岸課長

- ・各学校や中体連では話題になっているかもしれないが、個々の競技については協議されなかった。

浅田委員

- ・中学校の野球でも、投手は2試合連続で投げないことになっている。

吉楽委員

- ・小学校とは別に、スポーツ少年団という組織が中心となって色々なスポーツを小学校低学年から取り組んでいる。また、保護者が中心に個人スポーツを小学生或いはその前から取り組んでいる競技もある。サッカーやバスケットボールや野球などでは、学校教育ではなく各競技団体が運営するものに参加するという選択肢がでてきた。アルペンスキーや水泳では個人が力を付けてきて、先生は引率するだけで各種大会等に出場して日本記録を破るような子どもが登場しなくもない状況が片方にはある。学校での運動部活動としては、どの大会を目標として頑張るのかによって、大会に間に合わせるため過度に練習してしまうこともあることから、教育委員会が大会の在り方を考えてほしい。例えば地区大会はやめて、県大会レベルの大会を一斉に行えば、参加校が増えて大変ではあるが大会は減る。中学校の各大会を運営するには、各スポーツ協会の協力がないと判定ができないなどの問題があるため、外枠の環境をしっかりと整え、春と秋には大きな大会があることにすれば学校も対応しやすくなる。学校の判断となると保護者の温度差が影響し、大会を目標に活動することが主になるので、その辺をこの方針にもう少し謳ったほうが良いのではないか。

山岸課長

- ・大会については、郡市大会が無くなり中越大会からとなり、中体連で見直しをかけており、今後どういう形が良いのかを校長だけでなく中体連などに見直ししていかなければならないと考えるが、あくまで学校の部活動の方針となるため、中体連の動きを見ながら校長が判断し、保護者にしっかりと説明し地域の皆さんにご協力いただけるように進めるその主体とした。

佐藤委員

- ・学校単位で参加する大会等の見直しとあるが、大会参加の交通手段等は内容に掲げることは出来ないのか。

山岸課長

- ・「校長は生徒や保護者や運動部顧問の過度な負担」と保護者を入れたのは、あまり過熱したり送迎の負担を掛けないという点にも配慮してほしいということがある。また、郡市大会を抜きにしていきなり中越大会に、今まで出場していない子どもたちが

出場するため送迎が大変だということを教育総務課で検討している。諸々あるかと思うが今回はそこまで触れずに作った。

庭野委員

- その他の下に空欄があるので、来年度から中越大会が変わることを入れてはどうか。

吉楽委員

- 集団スポーツは、練習とは違い対戦しないと分からないことがある。公式大会だけでは大変な面もあると思うので、学校内で校長と保護者と地域の話が通じ合えれば、ローカル大会に参加することを否定したものではないと考えて良いか。

山岸課長

- お盆の間は閉庁日として学校に来なくて良くしたが、大会前で先生方が休めずに閉庁日に出来ない学校もあった。大きくない大会にも先生方が子どもたちを連れて行く、そのために休み無しで練習をしているという状況に、ある程度歯止めになってほしいという考えもある。校長と保護者と子どもたちが納得していれば、小さな大会にどんどん出て良いとなっては問題であり、書いてあるとおりに検討していただき、歯止めを掛けたいという考えである。

庭野委員

- 練習試合などにも先生が付いているが、保護者が先生の取り組む姿勢を見ている。一般の人でも引率できるようにしないと変わらない。

山岸課長

- 朝の活動を行えることにしていたが、色々な意見があって最終的に削った。朝の練習は、市外から通勤している先生には大変だが、来なければ保護者から取り組み姿勢が足りないと思われるがちであり、負担になっているという意見があった。

吉楽委員

- 早朝トレーニングは、昔の価値観で練習量が必要だということだが、きちんと考え方を示した方が良い。朝練をしている、していないで勝敗が決まるように捉えられるかも知れないので、それについて謳ってほしい。

山岸課長

- それも含めて16時間と入れて、歯止めを掛けてほしいと考えている。

庭野委員

- はっきりと朝練習はしないと決めないと難しいだろう。

蔵品教育長

- この検討委員会の中には、スポーツ協会の皆さんなども加えて成案とした背景があるので、学校現場としては運動部活動の方針を基本にして、これをスタートさせて全体のバランスをとっていくことかと思う。

浅田委員

- 自分の子どもも大会前などは土日関係なく先生が練習に付いてくださるが、土日や祝日の先生方の給料はどうなっているのか。

山岸課長

- 4時間で3千円の手当てがあるが、その前後の時間にも勤務している。普段も午後4

時 45 分以降も残って部活動に出ており、出来なかった授業の準備などを 19 時 20 時までしているが、教員の場合は 4%調整されているので残業分は支給されない。

山本指導管理主事

- ・ 3 千円については、1 回当たりなので 1 日でも午前中でも同じである。

蔵品教育長

- ・ 先生方のライフワークバランスで、月 45 時間、年間 360 時間以内という目標が、文科省から提案されている。そういったことを保護者からも理解していただくように、メッセージを教育委員会から発信しなければならないと思う。

庭野委員

- ・ 体育系教師の離婚率が高いと聞く。土日も家庭生活が無いのではないか。部活動が土曜日はあっても日曜日は無いなどの方策をしないと、教員の志望者が少ない中で大きな問題だと思う。

吉楽委員

- ・ 部活動の顧問は、その競技を知っているかどうかに関係なく決められているのか。

山岸課長

- ・ 1 学年 1 クラスで 3 クラスの学校は、教員が 6 人しかいない。その人数で 1 つの部活動を 2 人で受け持つことになり、部活の種類も多くない中で経験していたかどうかはほぼ関係ない。教科の先生を探すのに精一杯で、大勢の先生がいればその中にこの種目の指導ができる先生を探すことも出来る余裕があった。また、今年から運動部活動の指導員として 4 月から 4 校に一人ずつ配置した。国からの補助金を受けるのには、この運動部活動の方針を策定する条件となっている。

庭野委員

- ・ 学校の統廃合と関係するが、例えば陸上競技を学校単位ではなく、子どもの輸送手段を考えて合同練習などを行ってはどうか。指導者も学校を退職した人が、陸上の指導をしているので、出来ることから見直す時期だと思う。

吉楽委員

- ・ 間違いなくそういう方向に進むと思う。地域がある程度支えられる中で、制約を設けて中学生の指導をしないと、熱意のある指導者はやり過ぎると問題が起こり得る。

蔵品教育長

- ・ 県内では、すでにこの方針を自治体の半分くらいが作っているだろうか。

山岸課長

- ・ 近隣の自治体でもほとんどが作っている状況である。

(以上の質疑のあと議決された)

(5) その他

① 学区適正化検討委員会について

教育長

- ・ 事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

樋口部長

- ・学区外就学許可基準の検討について説明

庭野委員

- ・山北町の統合例が新聞に出ていたが、小学校の複式学級を解消するという事で統合しても、その後10年以内に人数が減ってきて統合することになる。複式学級解消だけでなく、将来を見据えた計画でないと難しいと思う。統合で新しい校旗を作り、新しい校歌を作ったが、また統合することになる。その辺りの見極めが大事である。片方が小さければ吸収になるが、同規模であると非常に難しい。

蔵品教育長

- ・今の計画は10年間ということだ。

庭野委員

- ・山北町では、ほぼ10年の間に2回統合して小学校が1校になった。川西地区で1校ということと同じである。

吉楽委員

- ・県内市町村の中学校数では、十日町市には10校あり、約5万3千人の人口で同等の市では、4校から5校である。教員数に着目して学校数で割ると、十日町市は15人くらいだが、他は20人から25人くらい教員がいる。小学校の統合もあるが、中学校においては高等教育への進路の関係や特別支援学級数を見ると、いじめや不登校にかかる教員数や学科を教える以外の教員がチームを組んで、学校全体であたらなければならないが、それだけの教員が確保されて責任が果たされるのか。1学年に1クラスだと教員の人数も限られ、ライフワークバランスどころか精神的に厳しい状況になるので、平成35年を目標というが、そう遠くない時期に中学校区については見直しをしないと、教員と子どもの双方に悲劇がありそうな気がする。これから、想像力や多様性の教育が求められる中で、あれもこれも先生にさせようとすればパンクする。必要な教育が、限られたカリキュラム時間の中で絶対消化できない。そういうことに保護者や地域はすごく敏感で、地域の中学校が遅れているとか出来ないということが、先生の能力の判断に戻ってきた時が一番悲劇だと見ている。小学校は複式の問題がでてきているが、これは一度議論されているので、ある程度理解が早いと思う。中学校は新しい話が出てきているので、しっかりと捉えて向かわないと難しいのではないかという印象である。

庭野委員

- ・小学校は地域のコミュニティの核なので、可能な限り存続するべきである。中学校は部活動の関係や教科が分かれているので、ある程度大きくないと大変なのは解る。それで中条と下条が170人で統合しても今と変わらない。さらに十日町中と統合してある程度の規模にすれば、南中と同じくらいになる。なぜ小さい中学校を作るのか疑問に思う。

吉楽委員

- ・学区適正化のマイナス面で拳がっていた地域への配慮が、構造的には出てくると思う。

長谷川課長

- ・この資料にはないが、既存の施設を活用するということがあり、それぞれの学校が何教室あるか資料には入れる予定で、十日町中か中条中には増築しないとそれだけの教室がない。この案では、いずれの組み合わせでも4校に集約されると6学級以上の確保はできる。

庭野委員

- ・それは丁寧に説明しても反発を受けるだろう。旧市町村を超えた再編については、地域のコミュニティが崩壊するのではないか。新しい枠組みではあるが、大きな問題だと思う。

蔵品教育長

- ・新しいコミュニティの構築ということになる。

吉楽委員

- ・学区外就学ができる場合の説明があったが、未就学児の保護者に周知する予定はあるか。

山岸課長

- ・市のホームページ上に公開されているし、変更があれば市報などで広報する。

吉楽委員

- ・例えば、今学校でいじめられていて不登校になったが、別の学校では登校できるかも知れないということも学区外就学の対象になるものだと思う。学区再編の中に載る事で、保護者に注目される可能性が高いと思う。

蔵品教育長

- ・非常に微妙な問題なので、追加資料について説明させていただいた。

吉楽委員

- ・まつのやま学園については、全市が学区ということで今回対象としないが、特色のある教育で誰でも入れるということが、地域の学校との適正化のバランスが難しくなるのではないか。

庭野委員

- ・現状の校舎の規模で分けざるを得ないのはわかるが、川西側で1校、十日町地区に2校と考えるのが自然ではないか。なかなか地域に受け入れられないのではないか。

長谷川課長

- ・川西中学校でも6学級なので、吉田中、松代中を全て受け入れられない。また、平成40年度になると減少率が高く6学級も維持できない状況になる。

吉楽委員

- ・子どもが増えるとういう事は違った方向に行くだろうが、減少傾向なのでどの時点で適正なのか読みきれないと思う。新聞に精神疾患の教員が増えているとあった。欠員があってもなかなか補充が厳しいというのは、学校の大変な構造が見えてしまうのではないか。

蔵品教育長

- ・教員の欠員の補充は、悩ましいところである。

庭野委員

- ・川西中学校がどこに再編するのがいいだろうか。

吉楽委員

- ・地域の考えを否定できない場合は、川西中学校は当面の間存続することになるだろう。他の中学校は今の論理で再編しないと厳しい状況だと思う。

山岸課長

- ・教員の補充ができないと新聞に載っているが、十日町市で産休・育休、療養休暇などの代替教員が見つからないものが3人、養護教諭が1人、今4人が欠員になっている。教頭、校長あるいは級外の先生が学級担任の代わりをしたり、養護教諭がいないため皆でカバーするなどの状況になっている。級外の先生は他に仕事があるわけで、厳しい状況になっている。今後、若い講師の方が教員採用試験に合格して居なくなるので、4月から何人も抜けてしまう。色々な方に声を掛けているが厳しい状況である。

吉楽委員

- ・中学校で代替教員が見つからない場合は、担任や授業に影響が出ることになるのか。

山岸課長

- ・中学校は比較的見ついている。但し、小学校は専門教科ではないので見つけやすいが、中学校は教科の抜けた穴に当てはまる方を見つけるのが難しい。

蔵品教育長

- ・県教委のホームページでは、採用予定数を満たしていなかったようだ。

山岸課長

- ・小学校が314人のところ311人であった。

蔵品教育長

- ・その中から辞退される人も出るので、何十人が足りなくなる可能性がある。

山岸課長

- ・それを見越して多めに採用していると思うが、どうなるか分からない。

蔵品教育長

- ・学校再編が、教員の確保の面からも必要であると思う。学区外就学についての意見を求める。

吉楽委員

- ・学区外就学を希望される方が、未就学児の場合には学校ではなく直接教育委員会に相談するのか。

山岸課長

- ・そのとおりである。

蔵品教育長

- ・再編校の組み合わせについては、学区適正化検討委員会の資料に各学校のキャパシティを記載して作成し、次回の検討委員会で協議する予定である。
全般を通して意見を伺う。

佐藤委員

- ・松代中学校の場合は、40周年記念事業が行われたばかりであり、まつのやま学園が単独でがんばれるなら、松代中は60人程度なので残すことも可能と思うが、出来ないことが多くあるため止むを得ないのではないかと思う。

浅田委員

- ・学区適正化委員会の会議録を見ると、熱い議論が交わされている様子が伝わり、難しい問題であると思った。統合を進めなければならないのは事実だと思うが、皆さんが100%満足できるような結果にはならないかも知れないので、皆さんに情報を提供して理解していただくことが大切だと思う。

蔵品教育長

- ・市民の皆さんが知らない部分があり、この表に関して話題になっている。出来るだけ市報等で正しい情報を発信していかなければならないと思う。この件については、教育委員会の都度現状を報告したいと思う。

② 最近の動きについて

- ・各部長、各課長等が資料に基づき説明

③ 12月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

④ 次回の教育委員会の開催日時

1月定例教育委員会 1月29日（火）13時30分から開催することに決定した。

以上で、15時40分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記